北

寮の姿も変われども 喪失われゆく大自然 北の都は開発かれて の名は永遠に

残雪溶けて東風吹か

湿原に咲く花影なし 川流絶えて水は涸れ 大地は黒々と輝けど

ただ寥々と佇立まう 短き盛夏の夕陽を浴びて 昔日の影すでになく 緑葉さわぐ楡の森りょくよう

虚空逍遥う月の影 までのこの眺望

樹影に黒き鴉鳥 白雪烈風に舞い上がはくせつかぜまります。 寂莫として声もなし 疎々たる杜を吹き抜きな けぬ h

行方も知り 警問性が 心 の痛みつのるかな の夜は未だ明けず の鐘鳴らせども 'n ぬ朔風に

> 過ぎし歳月早二年

懐かしさ満つこの団居